

平成24年度 第2回 九州工業大学 経営協議会 議事次第

日 時 平成24年 6月14日(木) 13:00~15:00

場 所 鳳龍会館 会議室

開 会

- 議長挨拶
- 委員の紹介
- 欠席者等の案内
- 平成23年度第5回議事要旨の確認
- 平成24年度第1回持ち回り会議の審議結果

〔審議事項〕

- (1) 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
- (2) 平成23年度決算について
- (3) 平成25年度概算要求について
- (4) 経営協議会から選出する学長選考会議委員について

〔報告事項〕

- (1) 次世代パワーエレクトロニクス研究センターの設置について

〔その他〕

平成24年度経営協議会 開催日程

議長謝辞

閉 会

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成24年度第2回）

1. 日 時 平成24年6月14日（木）13:00～15:00
2. 場 所 戸畑キャンパス 鳳龍会館会議室
3. 出席者 工藤委員，中川委員，袴田委員，濱田委員，山本委員，吉崎委員
（五十音順）
学長，理事（評価・総務・財務担当），理事（教育・情報担当），
理事（研究・産学連携担当），理事（経営戦略担当），
副学長（事務統括・労務担当），工学研究院長，
情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 監事（教育・研究担当），監事（経営・財務担当）

5. 議長挨拶

議長から，開会にあたり挨拶があり，文部科学省の大学改革実行プランについて，今回の経営協議会において，協議する旨の報告があった。

また，今回から新たに学外委員4名，理事1名，監事1名が就任されたので，略歴の紹介があり，新体制となって初めての経営協議会であるため，資料の名簿順に自己紹介いただき，引き続き，学内の副学長等の紹介が行われた。

6. 会議成立

構成員18名のところ，15名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

7. 議事録の確認

平成23年度第5回経営協議会（平成24年3月16日）の議事要旨について確認が行われ，了承された。

また，平成24年度第1回持ち回り会議の審議結果について説明があり，4月1日から実施の人事院勧告に基づく給与改正に関しては，経営協議会に諮る時間的な余裕がなかったため，事後承諾となったことについて報告があった。

8. 審議事項

（1）平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

理事（評価・総務・財務担当）より資料に基づき，平成23事業年度の実績を中心に説明が行われ，以下のとおり意見等が述べられた。

（○：学外委員，△：学内委員）

- ： 学生の中で授業に自発的に参加する学生は多いのか。
- △： 学生創造プロジェクト「夢プラン」を行うことで，自発的な取り組みを経済的にも支援しており，また講義以外でもロボット製作など課題を科すことで自発的な学生が徐々に増えつつある。
- ： 日本人学生と留学生を一緒の寮に入居させる試みは行っているのか。
- △： 情報工学部において，旧教職員宿舎を改築してステューデント・レジデンス

を設置し、日本人学生と留学生が混在して住めるようにしている。そこに居住している日本人学生は、外国の方と接しても物怖じせずに積極的にコミュニケーションをとっているため、今後増やしていきたい。

- ： 海外との国際化の取り組みは記載されているが、地域や他大学との先進的な研究の取り組みについては、少ないように感じられる。
- △： 地域や他大学との研究の取り組みは行っているが、23年度以前からの継続的な研究も多く、23年度に実施したものとしては、あまり記載していない。
- ： 本学に留学してくる学生の卒業後について、どのような企業で活躍しているのか、または本学での経験がどのように活かされているのか、フォローアップが今後の課題ではないか。
- △： 全学的な組織を作ってフォローアップすることが、今後の国際戦略としての課題だと考える。北京などはOB会が存在すると聞いているので、OB会と連携を取りながら、世界的にネットワークを広げていきたい。
- ： 10日程前に工学部キャリアセンターで、「九州とアジア」と題して就職セミナーで講演を行った。その際に、学生が後ろの席から座っているのが気になった。海外ではどこの国でも前から座るのが当たり前だ。その時点で、海外の学生に負けている。また、レポートを提出してもらったが、漢字等の間違いなど、2割程度の学生に語彙力が足りない者が存在した。今後は、下位の学生に対するサポートが必要ではないか。
- △： 確かに1～2割程度の学生に、語彙力等が足りない者が存在し、現場の教員もそういった学生がいることで、大変苦労している。このことは教育だけでは解決する問題ではないので、自ら勉強する意欲を持たないと厳しい。大学としても、少人数の教育など行いながら、自ら意欲を持つように指導しているが、全ての者をサポートすることは難しい。
- △： 下位にいる学生のボトムアップに力を入れているが、どうしても2割程度の学生がもれているのが実情であり、入学時からモチベーションを持たせることが大事ではないかと考える。
- ： 日本人学生がどこの国の留学を希望しているのか。また、交流協定大学との学生交換を行っているのか。次に、共同研究等の件数について、将来的にどのように考えているのか。また、目標値を定めているのか。
- △： 日本人学生も積極的に海外に留学させる方針で取り組んでいるが、圧倒的に海外から本学に来る学生が多い状態である。最近では、短期間で留学をさせるチャンスを与えており、行先は韓国、中国、アメリカが多くなっている。情報工学部ではIIFプログラムを実施し、英語が優秀な者を選抜したうえで、4年間に2回、海外留学を経験させている。
- △： 企業等からの共同研究・受託研究については、過去に将来の獲得件数を予想していたが、社会情勢等に大きく左右されるため、先を予想することは極めて難しい。現在は、文科省から採択を受けて進めている産学官連携自立化促進プログラムで目標値を掲げているので、それを毎年の一応の目標としている。
科学研究費については、全教員に申請するように指導しており、申請しない

教員については理由書を提出させている。ただ、採択率を上げることが難しく、他大学も努力しているため、採択件数は例年横ばいとなっている。

- ：卒業した学生にメールアドレスを登録してもらうことで、卒業後、海外に帰国した留学生も含め、折々に「メルマガ」や「ニュースレター」などを送ることにより、本学との繋がりを継続するようにはいかがか。こういう普段からの繋がりにより愛校心が育つという効果もあるのではないかと考える。

その後、工藤委員より資料に関して、分かりづらい表現や文章の体裁等について、発言があった。

以上の意見等を踏まえて、学長の責任において修正を行うことが了承され、役員会に付議することとした。

(2) 平成23年度決算について

理事（評価・総務・財務担当）より資料に基づき、平成23年度決算について説明があり、審議の結果原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

(3) 平成25年度概算要求について

理事（評価・総務・財務担当）より資料に基づき、平成25年度概算要求について説明があり、審議の結果、要求事項の優先順位等については、学長に一任することで、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

(4) 経営協議会から選出する学長選考会議委員について

副学長（事務統括・労務担当）より学長選考会議の構成員に関する申し合わせ（H16.6.16 経営協議会決定）に基づき説明があり、委員を選出する提案について審議し、了承された。

9. 報告事項

(1) 次世代パワーエレクトロニクス研究センターの設置について

学長よりセンターの設置について、報告があった。

10. その他

(1) 平成24年度経営協議会 開催日程

学長より資料に基づき、次回以降の開催日程について説明があり、第3回または第4回においては、若松キャンパスで開催したい旨の報告があった。

新聞記事について説明があり、マレーシアにサテライトキャンパスを置くことで、現在マレーシア側と協議中であること、また、5月18日に打ち上げられた人工衛星「鳳龍弐号」が6月から本格的に実験を行う旨の報告があった。